

すずかんの

医療改革の「今」を知る

医療を元気にして
アジアの人々と
ギブ&テーク。

第48回

この度の総選挙では、私ども民主党を勝利させてくださり、ありがとうございます。ご期待に応えられないような気を引き締めて参ります。

今回は少し趣向を変えて経済の話をしたと思います。通商白書によれば、アジア諸

国の中間所得層は08年には90年の約6倍の8億8千万人まで増えていきます。その人たちに価値あるものを提供し対価をいただくのでなければ、日本の成長はあり得ません。

日本が世界トップレベルの水準にある高付加価値分野の代表格が環境と医療です。製造業は工場の海外移転などもあって必ずしも雇用につながりませんが、医療は間違いなく雇用を創出します。そして外貨による潤いは、医療水準向上という果実となって地域

にも還元されます。

この観点に立つと、過去20年ほどの医師養成数抑制が、いかに大失政だったか改めて分かります。せつかく外からの需要を呼び込める分野だったのに、現状では国内の需要さえ満たせていません。

短期的には人材の育成を急いで、崩壊しかけの体制を立て直し、中期的にはアジア全体の需要に応えるだけの質量と研究開発力を養うことが肝要です。

既に萌芽は見られます。東京大学医科学研究所の中村祐輔教授が開発したがんのペプチドワクチンは、強い副作用なしに高い延命効果があると確かめられつつあります。成果を真っ先に日本人が享受でき、しかも今後、世界中の人に喜んでお金を払ってもらえるようになると思われま

す。もう一つ、千葉県鴨川市にある亀田総合病院が8月に国内の病院として初めて国際的な機能評価認証（格付け）の

JCIを取得しました。同病院は房総半島の南端に位置し、とても交通の便が悪いのに日本中から患者が訪れることで知られています。今後は同じ県の成田空港を利用して、アジアなどの患者たちがどんどん訪れるようになることでしょう。

このような世界の一員として貢献する動きを、今までの厚生行政は規制するだけでしたが、今後は国と現場とがコラボレートしながら推進・普及していくことも大切だろうと思います。

医療現場危機打開・再建国会議員連盟幹事長、
中央大学公共政策研究科客員教授、参議院議員
鈴木 寛



すずき・かん ●通称すずかかん。1964年生まれ。慶應義塾大学SFC環境情報学部助教授などを経て、現職。教育や医療など社会サービスに関する公共政策の構築がライフワーク。